

会報 (第11号)

目次

- 新年ご挨拶 2
 - ・斎藤英四郎 会長
 - ・池田行彦 外務大臣
 - ・サンチス駐日アルゼンチン大使
- どうなるアルゼンチン経済!? 4
- 現地便り 5
 - ・サッカーへ復帰したディエゴ・マラドーナ
 - ・スペイン語俳句コンテスト
 - ・ブエノス州、外国人にも選挙権
- アルゼンチン政経速報 8
 - ・政治・経済
 - ・日・ア経済関係
- アルゼンチンの夕べ 10
- タンゴ物語 (1) 11
- お知らせ 13
- 人事往来 14
- 新刊書「タンゴ」 15



法人団
日本アルゼンチン協会

会報第十二号 一九九六年一月二十四日発行

編集人 野村秀治
集行人 渡部透

千代田区内幸町一ノ二ノ二
日比谷ダイビル一七〇五号室
電話 (三五〇一) 四六八四番
FAX (三五九五) 三九三二番

謹賀新年
1996年正月
社団法人 日本アルゼンチン協会
役員一同



名曲に酔う (左から3人目) 近藤副会長、サンチス大使、リード公使 P.10

新 年 ご 挨拶

○ 齋 藤 英四郎 会長

協会会員のみなさま、明けましておめでとうございます。

わが国とアルゼンチンの関係は、ますます緊密の機運が高まっています。

昨年はカバロ経済大臣ほか主要閣僚の相次ぐ訪日があり、11月末のブエノス・アイレスでの日亜経済合同会議には200名もの両国代表が参集しました。近くディ・テラ外相の訪日が予定され、今年も交流が深まるものと確信します。

昨年発足した「メルコスール」は順調な足取りをみせ、アルゼンチン経済の改善に寄与し、欧米諸国からの投資が相次いでおり、わが国からの投資も期待されるどころです。

協会事業の一環として昨年開催した「アルゼンチンの夕べ」は、サンチス大使をはじめ会員多数のご出席をいただきました。今年もさらに、充実した活動を進めていきたいと存じます。

会員各位のご健康とご発展、ならびに当協会への更なるご理解とご協力を期待して、新年のご挨拶といたします。

○ 池 田 行 彦 外務大臣

新年に際し、日頃我が国とアルゼンチンの間の交流促進に尽力されている日本アルゼンチン協会の皆様に御挨拶申し上げます。

アルゼンチンにおいては、90年代に入り、メネム大統領の卓越した指導の下で自由市場経済に基礎を置く大胆な経済社会改革が推進され、高い経済成長を実現しております。今日、中南米地域はアジアに次ぐ世界経済の成長センターとして注目されておりますが、この中でもアルゼンチン経済の成長は群を抜くものがあります。

94年末に発生したメキシコ金融危機は、中南米のみならず世界経済を揺るがせた事件として記憶に新しいものですが、アルゼンチン政府は健全化かつ適切な財政運営をもって、危機の直接的影響を回避する努力を行い成果を挙げていると聞いております。

こうした改革努力に加え、アルゼンチンが積極的で活発な外交を展開していることもあり、近年我が国とアルゼンチンの間で関係緊密化の環境が整いつつあります。93年のメネム大統領訪日や94年9月の河野外務大臣のアルゼンチン訪日を始め、様々な

レベルや分野で対話と交流が進んでいることは、誠に喜ばしいことであります。

今後我が国政府としても、こうした気運を活かし、日ア両国のあらゆる分野で交流と相互理解が一層進むよう、できる限りの努力を行う所存であります。

最後に、日本アルゼンチン協会の皆様の一層の御発展と日ア友好関係の増進を心からお祈りして、私の年頭の御挨拶とさせていただきます。

○ サンチス駐日アルゼンチン大使

日本アルゼンチン協会会員の皆様、新年にあたり、アルゼンチン大使館館員一同を代表して、皆様の益々のご健康とご幸福をお祈り申し上げます。

日ア両国の相互関係は、政府レベルでの円滑な接触のみならず、スポーツ、社会および文化の分野においても精力的な活動により、疑いもなく日増しに強化継続されております。とくに、日本アルゼンチン協会及び会員皆様の活動を高く評価するものであり、その努力がアルゼンチン国民とのさらなる接近及び相互の認識を深めております。

新年に当たり、この機会に我々に提供下さった全てのご協力に感謝申し上げるとともに、1996年が両国に存在する友情のきずなを一層強化し、皆様が益々発展されご成功をおさめられる事を願い、新年のご挨拶と致します。

ご存知ですか？ 藤田画伯の在ア業績

「藤田画伯のアルゼンチンでの業績を熟知している方、その資料を紹介して欲しい」歴史家でもあるサンチス・アルゼンチン大使が、こう漏らしている。

世界的にも有名な藤田嗣治画伯は1932年（昭7）にアルゼンチンにわたり、新境地をもとめて画業に専念していたことは、一部の専門家の間では認められている。しかし、その活動や業績が未だ良く知られていない。

「ロザリオの美術館に彼の絵画があった」（東銀小林理事）「アルゼンチンでも彼の絵は5万ドル（500万円）はしている」（メディアファーム）との情報が寄せられている。

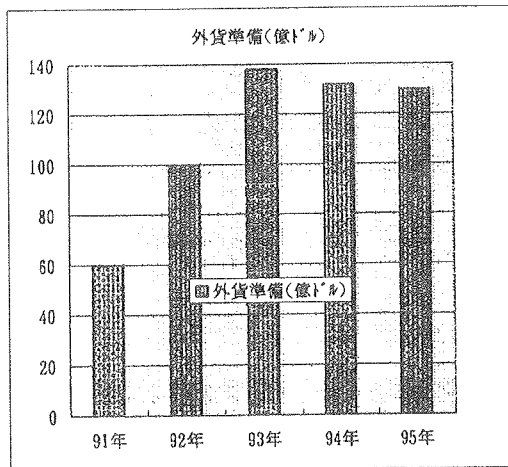
どなたかサンチス大使のために、本件の専門家を紹介していただけませんか？協会事務局にご一報いただければと存じます。

どうなるアルゼンチン経済!?

—1996年の経済展望—

東京銀行海外部

理事 小林 晋一郎



経済活性化の基盤は外資流入が主体となっているため、国際経済情勢の変化に脆弱な体質であるところ1995年年初のメキシコ通貨危機がアルゼンチンを直撃した。先ず、株式及び国債が暴落し、ついで預金の流出(約80億ドル 全国預金の15%に相当)が発生、兌還制度のもとマネタリーベースが減少し流動性危機に陥った金融機関が相次いだ。

資本逃避、投資銀行の経営悪化、中小銀行の流動性不足、金融システムの不安、中小企業

の資金不足、景気の急激な悪化に直面、通貨切り下げ、兌換制度の放棄が懸念された。

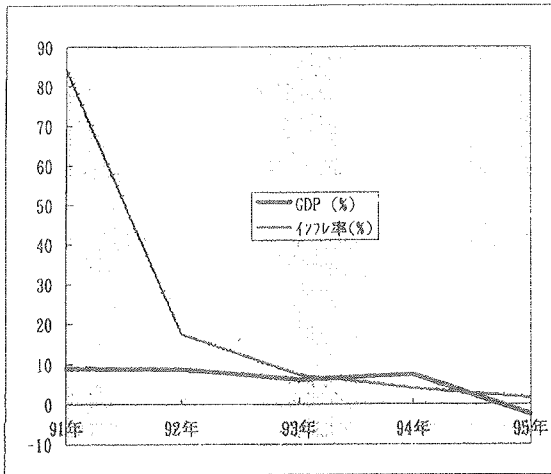
金融不安の高まりに対し、政府は兌換制維持に必要な不可欠な財政均衡策、国際金融機関よりの借入50億ドル、米ドル建国内債発行20億ドルを含むファイナンシャル・パッケージ、銀行システム救済策を発表した。

メネム大統領は1995年5月14日の選挙で得票率49.9%を以て再選を果たし、7月8日発足の第2次メネム政権においてカバロ経済大臣が留任することになり兌換制維持の政治的決意が明らかになり、メキシコ通貨危機の波及効果は終息に向い始めた。流出した預金の90%は戻って来た。銀行の吸収、合併により銀行数は1994年末の165行から1995年6月には147行に減少し金融システムに安定の兆しが見え始めた。

緊縮財政下の不況により1995年のGDP成長率は前年の7.4%から2.5%のマイナス成長に転じたものと見られる。不況とメネム政権下で進められてきた国営企業の民営化、行政改革、民営企業の合理化により首都圏の失業率は1994年5月の11.1%から1995年5月には20.2%に跳ね上がったが、10月には17.4%に落ち失業問題も少し明るさが見え始めた。

IMFに対する1995年財政収支目標は当初44億ドルの黒字(含、民営化収入)であったが達成困難となり、IMFと交渉の結果均衡予算が認められた。しかし不況による税収の低迷により達成が困難視されている。

国内消費減退と投資落ち込みにより輸入は減少、輸出はブラジル消費拡大による対ブラジル向輸出を中心に増大、貿易収支は1994年の40億ドルの赤字から1995年は27



億ドルの黒字に転ずると見られる。1996年予算編成にあたり、政府はインフレ率3%、(1995年インフレ率予想1.8%)、GDP成長率5%、現行の為替相場維持を前提としている。

民間エコノミストは1996年のGDP成長率を2~3%程度と予測している。

政府は今後も兌換制度を維持するものと見られ資本流入(直接投資、逃避資本の還流)が回復し国内流動性が増加し

ない限りは本格的な景気の回復は望めないだろう。

国内貯蓄率は1991年の14%から19%へ上昇したものの、経済成長を押し上げるには不十分であり、最近、制度化された民間年金基金の育成による国内貯蓄率の向上が待たれる。資本流入→国内消費、投資の拡大から国内貯蓄率の向上→投資→輸出の拡大という成長モデルの転機が持続的経済成長率達成のためには必要であろう。

現 地 便 り

◎サッカーへ復帰したディエゴ・マラドーナ

今アルゼンチンでは、再び「マラドーナ旋風」が吹きまくっている。

マラドーナは1994年の世界サッカー大会中、ドーピングにより15カ月の出場停止処分を食らい、その再復帰第1戦を昨年9月30日韓国ソウルのオリンピック競技場で果たした。ボカ・チームの一員として韓国選抜チームと対戦、全世界にテレビ放映され、2対1でボカが勝った。折からアジア訪問中のメネム大統領もわざわざそれにスケジュールを合わせる力の入れようだった。

マラドーナは、頭髪を帯状にボカのシンボル色である金色と青色に染めて、強気に復帰をアピールし、35歳になるプロ男の執念でもあったようだ。

マラドーナの歴史は、自分がそうしたいと思い、自分が出来ること全てをやった歴史である。それは、マラドーナに匹敵するプロ選手だったベレーでもデイ・ステーションでも出来なかった事である。マラドーナ・スタイルとでも言うか尊大な態度を見せ、耳には目に入れても痛くない2人の娘の乳歯で作ったイヤリングをしている。彼は純血のサッカー・プロで、国民の最大のアイドルで、足下にボールを置いて世界で一番力のある男だと感じている。

マラドーナのソウルにおける復帰第1戦は世界が注目する大きなイベントとなった。2002年の世界サッカー大会開催国として日本と競り合っている韓国にとって大きな

効果があった。

(ア国の韓国支持) を問われたメネム大統領は、「その決定は政府ではなく、ア国サッカー協会が独自で行うもの。しかし、韓国は候補国としても好感を持たれている。」と答えた。一方マラドーナは「韓国の2002年を演じるためにきたのではないし、そのことで、誰とも契約、約束はない。自分はどっちにも味方していない。ペレーやアペランジェは日本最良だが、とにかく、うまく組織されているところが決まればよい」と述べた。(当協会註：実弟がアビスパ福岡の選手)

あれだけサッカー熱の盛んな日本だが、韓国でのマラドーナ復帰試合の報道はなされず、大会開催候補国としての水面下の戦いは相当深刻なようだ。

帰国後の公式リーグ戦では、コロンと対戦、ボカは1対0で勝ち、マラドーナはまだ衰えていない事を証明した。この試合に動員された警官の数は900名、放水車1台、ヘリコプター2機、救急車5台だったが、ボカは60万ドルの収入をあげた。

(らぶらた報知紙より)

(当協会註：昨年12月14日マラドーナは、所属チーム ボカ・ジュニアの新監督人事をめぐる意見の対立から退団する旨表明した。

さる7月に900万ドルを超える契約金でボカと契約選手として復帰したがボカ・ジュニアは新監督に元アルゼンチン代表監督のカルロス・ピラルド氏の就任を予定している。マラドーナはスペインのセビリアでプレーしていた時、監督をしていたピラルド氏と衝突した経験がある。)

◎「スペイン語俳句」コンクール

昨年11月27日在アルゼンチン日本大使館広報文化センター主催、らぶらた報知後援による「第二回スペイン語俳句」コンクールの授賞式が同センターで開催され、応募3,000句(94年は200句)の中から次の3人(女性)の句が入賞した。

1等：コンスタシア・フィオテイ

Despacio el alba

よあけ ちち
夜明け 遅々

recoge las estrellas

ほし もく
星も黙せり

adormecidas

ゆめ
夢うつつ

2等：アナ・パラシオス

El nardo surgió

はな
花ナルド

más fue la mariposa

すがた
姿ひとしお

quien lo tornó flor

こちようま
胡蝶舞い

3等：ペアトリス・マテウ

El agua muerde

la mirada de piedra

quién oye el grito

ほんりゅう
奔流に

いわためそ
巖の眼め削がれ

ひめい
悲鳴かな

(らぶらた報知より)

(註：訳句は当協会 薄井康夫顧問による)

◎ブエノス州、外国人にも選挙権

ブエノスアイレス州議会で法令第11700号が成立し、同州に2年以上継続して在住する外国人（成年、スペイン語が読み書きできる）に選挙権が与えられることになった。投票の対象は、州知事、副知事、州議会議員、市長、市会議員、教育委員、州立憲議会議員、州民投票など。

事務局からのお願い

「個人会員および個人賛助会員」募集

当協会の構成員は「法人」を主体としていますが、このほか「個人正会員」（議決権有り）の制度があり、現在30数人がメンバーに登録されています。さらに文化活動への参加を主眼とした「個人賛助会員」制度（議決権なし）があり、広く当協会へのご支援をお願いしています。

個人会員制度の概要は次のとおりです。

- ① ☆正会員（定款上総会の構成員。議決権有り） 年会費 ￥10,000
☆賛助会員（定款上総会には非構成員。議決権なし。
その他は原則として正会員に準ずる） 年会費 ￥5,000
- ② 会報：当協会の発行する「会報」をお届け（無料）することにより、日ア間の最新情報を文化、通商、経済などに亘って提供します。
- ③ 文化活動ないし演奏会などの催物のご案内、割引案内を行い、ご希望の分野にご参加（実費徴収）いただきます。
- ④ 定例総会のほか「親睦会」を開催し会員相互および在京大使館との交流を計ります。
アルゼンチンに関心の深いご友人、関係先の方々を、是非ともご勧誘ください。事務局にご一報あれば加入申込書を、ご本人あて郵送いたします。

投稿歓迎

「会報」についてのご感想、ご意見のほか会員の皆様からの消息、近況などの投稿（内容自由、ただしアルゼンチンに関連したもの）をお待ちしています。紙面の都合で止むなく、一部手直しさせて頂く場合がありますので、予めお含みください。

アルゼンチン政経速報

◎政治・経済

東京銀行 海外部
理事 小林 晋一郎

- 1996年9～10月、メネム大統領は韓国、中国、フィリピンを公式訪問した。
韓国では牛肉の韓国への輸出と韓国企業のアルゼンチンへの投資、中国では牛肉の中国への輸出が話し合われた。
- 1999年の次期大統領選挙に向けて与党ペロン党のパリート・オルテガ前ツクマン州知事が立候補の意志を表明、ペロン党からの候補者に選ばれない場合はペロン党外から立候補することを表明した。ペロン党からの次期大統領候補の最有力候補者はドアルデ現ブエノスアイレス州知事である。オルテガはペロン党を離党したFREPASO党のボルドン上院議員と接触しておりボルドンと新党結成の可能性も噂されている。
- 昨年12月の通常国会に、政府は議会の承認なしに歳出削減の権限を行政府に与える等の内容を盛り込んだ「第二次国家改革」案を提出した。この法案は1996年予算、税制改革などと一緒に国会で審議されている。
- ブエノスアイレス市長選挙を1996年6月末までに実施することで1995年12月に与野党が合意した。ブエノスアイレス市長は政府任命であったが憲法改正により直接選挙によることになった。1995年末までに選挙を実施することが規定されていたがブエノスアイレス市では野党支持者が多いため政府が先延ばししてきた経緯がある。
- 全国失業率は1995年5月の18.4%から10月には16.4%に低下したが失業問題は引き続き国民の最大関心事である。1995年12月に実施されたブエノスアイレス首都圏での民間調査期間の世論調査によれば国民の心配事は第1位 失業問題 (44%)、第2位 政府の腐敗 (17%)、第3位 低い給与 (11%)、第4位 年金生活者の生活 (8%)、となっている。政府高官によれば1993年以降企業の合理化、国営企業の民営化などにより30万人が職を失った。一方、年間約30万人の若者が労働市場に入って来る。
- 1995年10月の貿易収支は輸出1,512百万ドル (前年同月比+11.4%、前月比▲7.1%)、輸入1,666百万ドル (前年同月比▲9.5%、前月比+2.5%) で154百万ドルの赤字となった。1・10月の貿易収支は1,030百万ドルの黒字である。
- 政府の民営化方針に従い1991年7月にラ・リオハ州立銀行の民営化を第1号として、コリエンテス州立銀行、チャコ州立銀行、エントレ・リオス州立銀行、ミシオネ

ス州立銀行、フォルモサ州立銀行等が民営化を終えた。ブエノスアイレス州立銀行を除き上記以外の州立銀行も民営化手続き中ないし民営化の方針が決定されており州立銀行の民営化が終了すれば、州財政の健全化に大きく寄与すると期待される。

- 昨年8月に発表された未納税金の支払い軽減措置（12月に第1回目の支払を現金で行い以降30ヶ月の手形による分割納付）の対象額は当初の見込みを大きく上回り40億ドルに達した。政府は納税者より国税庁に差し入れられる手形を担保に、ガリシア、リオ、フランセスの3行より合計15億ペソ程度の借入を予定している。
- 1995年12月電力会社2社 EDESUR、EDENORのそれぞれの政府保有株式39%の入札が実施された結果、EDESURはチリのENERSISグループが39%を390百万ドルで落札、EDENORは19.46%を、スペインのENDESAが156百万ドルで落札した。

これにより政府は年間民営化収入目標の12億ドルを達成した。

◎日・ア経済関係

大来財団日本評議委員会事務局長
(財)国際開発センター主任研究員
齊木茂治

○ 日ア経済合同委員会

1995年11月28日と29日の両日、ア国ブエノスアイレス市に於て第17回合同委員会会議が開催され双方の代表、オブザーバー総勢約200名が出席した。このうち日本側出席者は約80名と前年比20名の増で日本側のア国への関心が徐々に増えつつあることを感じさせた。今回会議で特に印象に残った点は下記の通り。

- 1) 会議にはア国カバロ経済大臣をはじめ政府高官も多数出席、スピーチを行い民間ペースの会議とは言えア国政府の対日貿易、投資関係拡大への意欲が強く感じられた。
- 2) メルコスールの一層の発展並びに同年9月に東京で開催されたメルコスールセミナーや同年11月に大阪で開催されたAPEC会議の結果も踏まえ、本会議のテーマも単に日ア関係にとどまらずメルコスール市場やアジア市場も視野に入れたグローバルな貿易、投資関係拡大、強化に係るスピーチや討議がなされた。

尚、本会議にて通産省通商政策局佐藤征夫審議官が特別メッセージを述べられ、このほど通産省とア国経済省の間で政府対話の場が設置されたことが報告された。

○ JICA ア国第2次経済開発調査（俗称：大来II調査）

1994年7月に開始された本調査は現在順調に進行中なるも、上記日亜経済合同委員会会議の場で国際開発センター藪田仁一郎専務理事より今までの調査結果に基づ

き“アルゼンチン・東アジア間の貿易。投資活発化の課題（大来Ⅱの経験）”と題しスピーチがなされ、ア国の東アジア輸出促進に対する課題として、官民が一体となって一定の重点品目に人と資金を集中的に投入すべきこと、輸出支援のために東アジアに貿易促進事務所を設立すべき等が指摘された。また今後は、メルコスール市場の形成に伴う製造業投資と日本を含む巨大な消費人口を抱える東アジアの成長に伴うア国の農水産資源の加工品への投資が増大する可能性があることが指摘された。

○ 大来財団活動

- 1) 大来財団はア国経済省との連携の下、上記大来Ⅱ調査にア側民間とのコーディネーターとして協力する一方、食肉、林業、パルプ、鉱業、3業種のア国のアジア市場参入の可能性に関する調査も実施中で、先ずは、食肉にかかる調査を完了し同レポートを上記日亜経済合同委員会会議の参加者に配布した。
- 2) 大来財団はア国の経済発展に資する輸出促進型プロジェクト創出のため(株)日本国際協力機構(JAIDO)、ア国投資財団と共同でプロジェクト調査推進基金を設立すべく1995年11月29日に上記日亜経済合同委員会会議に参加されたJAIDO成瀬知則副社長がブエノスアイレス訪問を機に同地にて3者協定を締結した。1996年早々3者基金拠出の上、鋭意調査を開始する予定。
- 3) 日本輸出入銀行海外投資研究所木下俊彦所長を講師に迎え1995年12月4日ブエノスアイレス市、12月6日メンドサ市にて“Fast-Growing Asia and Pacific Economies; Will Japan Invest More? - Implications on Argentina”と題するセミナーを開催、内容も11月開催のAPEC大阪会議関連等まことに機を得たもので好評を博した。

アルゼンチンの夕べ タンゴサロンに集う141名

秋が深まる霞が関に当協会会員ほか関係者、141名が集い、懇親を暖めた。

11月15日夕、霞が関三井クラブに山下和夫元駐アルゼンチン大使と同夫人、令嬢を始め多くのご婦人を交えた会員が席を埋め尽くした。

近藤四郎副会長の開会の挨拶に続いて、超多忙の合間を縫って出席されたホセ・R・サンチス、アルゼンチン共和国大使が「ア日両国の友好をさらに深めたい」との挨拶と乾杯の音頭。大使館からは他に、ロベルト・R・リード公使（経済商務担当）、ミゲル・E・ゴメス・アギーレ参事官（文化担当）も出席した。乾杯のあと、ロシアッテイ楽団による新曲タンゴ「ポリー・フェルマン（サンチス大使夫人）に捧ぐ」の突然の演奏があり喝采を浴びた。

アルゼンチン・ワインと食事、積もる会話を楽しんだあとのタンゴの名演奏。木

田タンギート氏の解説を交え懐かしい名曲の数々に一同酔いしれた。ご帰国中の角田駐ウルグァイ大使夫人の特別参加によるタンゴの歌唱がフィエスタの雰囲気さをさらに盛りあげた。

楽団歌手ミゲル・マイダーナの熱唱は本場タンゴの雰囲気を沸かせ、演奏は予定時刻を大幅に上回るまでつづいた。

タンゴ物語 (1)

津田正夫

○ 大統領の訪日第一声

1961年(昭和36年)アルゼンチンの大統領フロンディシが訪日するとき、駐ア大使であった私は大統領に、日本ではアルゼンチンのことは余りよく知られていない。しかしアルゼンチンに関する知識はなくても、アルゼンチンで生れたタンゴを知らぬ日本人はいない。それで日ア両国間の友好関係に初めてアルゼンチン大統領が日本を訪問するためには、その先達として日本人にアピールするものを送ることが必要だ、それにはフランシスコ・カナロ楽団を送ったらどうか、と進言した。大統領訪日の半年前の話だが、それが実現し、大統領日本到着の第一夜、コマ劇場で蓋を開けたカナロ演奏会に、大統領は出席し、そこで日本の観衆を前にして日本における第一声として「タンゴはアルゼンチンの魂である。このタンゴによってわが国を理解して欲しい。そのタンゴの帝王がカナロだ」トカナロ礼賛の言葉を述べた。

そのカナロがタンゴ界に登場したのは1908年だった。ボカのうす汚いカフェ・ロイヤルで初めてカストリタのピアノ、ロドウカのバンドネオン、彼のヴァイオリンというトリオでお目見えした。そのカフェの向い側ではグレコが、また30メートルほど離れた「ラ・マリナ」というカフェではエスポジトが、その向い側ではフィルボが、というふうに、期せずしてタンゴの名花が煙草の煙がもうもうとし、酔っぱらいの声の喧ましい飲み屋で開花したのだ。

○ タンゴの開花

このタンゴの開花には19世紀の終り頃、ドイツから入って来た「バンドネオン」というアコーディオンよりも遥かに多彩の音色を出す楽器がタンゴの音楽性を豊かにしたことは否定できない。そのスタッカットとレガートの織りなす交錯は、タンゴ独特の詠嘆さを深めたと同時に、その絢爛さをも加え、一段とタンゴの音楽性を増した。またバンドネオンの移入で、従来のタンゴが主として長調だったのが、その一部が短調になった。

このタンゴの隆盛を一段と昂めたのはヨーロッパ各国におけるタンゴへの関心だ

った。誰の企画か知られていないが、1906年アロが練習船「サルミエント」号が世界各国を巡航したとき、「ラ・モロチャ」の楽譜を持ち込み搭乗、同艦の軍楽隊は欧州の港々でそれを演奏した。もっともその前年にはA・ゴビという人が「エル・チョコクロ」の楽譜を携えて渡仏、フランスで評判になり、続いて1907年にはヴィジヨルド・サボリードも渡仏して演奏した。

こんな下地があったので、パリでのアルゼンチンタンゴは大いにパリの人々の血を沸かせた。ところが、1912年だったか、当時の駐仏アルゼンチン大使は、パリの人々のタンゴ熱に眉をひそめ、「タンゴはブエノスアイレスの最下層の人々の踊りで、決してサロンで踊るものではない。タンゴはアルゼンチン人にとっては不道徳なものと言われている」と一生懸命になって水をさしたが、フランスのタンゴ熱はそんなことで消えるどころか、その翌年には英国で「タイムズ」紙がタンゴを礼讃する記事をかき、同年の7月9日のアルゼンチン国祭日の祝会にはアルゼンチンの駐英大使はその公邸で英国の官民を前に、アルゼンチンの踊り子によるタンゴを紹介、ローマでもアルゼンチン大使はタンゴを礼讃する言葉を新聞に投稿した。

○ ヨーロッパを風靡

また、イタリアでは、このタンゴが余り急激に流行したので、1914年ビオ十世は一度は野蛮な踊りとして禁止したが、誰もその禁止令を守らなかったので、法王はその後ヴァチカンにタンゴの踊り子を招き、実際にみたところ、それは彼の生地であるヴェネチアでみられる「フルラーナ」と同じようなものだと云って禁止を解除した。ドイツのカイザー・ウィルヘルム二世もタンゴは軟弱なものでドイツ国軍の士気に関する云って禁止したそうだが、それもたちまち有名無実になり、かくしてタンゴは野火のごとく欧州一般に流行した。

ヨーロッパ憧憬のアルゼンチンがこれらのニュースを看過する筈はない。ヨーロッパで流行しているのなら、タンゴはボカの蛙どもの踊りとか、下品とか卑猥とかいう考えは吹っ飛んでしまった。時たまたまガルデルという世紀のタンゴの名歌手（会報第10号参照）が出現したのを機会に、ここにタンゴの黄金時代が出現した。タンゴは今ではアルゼンチンの人の腹の隅々までしみ込んでいる。彼等の鼻歌はタンゴだ。（つづく）

「ボカ共和国見聞記—知られざるアルゼンチン」より
（筆者（故人）は元駐アルゼンチン大使）

お知らせ

- ポリー・フェルマン（駐日アルゼンチン大使夫人）のピアノ・チャリティー・コンサート

3月19日（火）19：00 津田ホール（JR千駄ヶ谷駅前）

入 場 券：¥4,000円（全自由席）

主 催：日比パガサの会

（フィリッピン国ストリート・チルドレンへの教育援助寄金）

連 絡 先：044－888－0193（遠藤ミチコ）

- アルゼンチン情勢に関する講演会のご案内

1月に帰国された前駐アルゼンチン大使小宅庸夫氏の講演会を次の要領で開催しますので、ご来聴下さるようご案内申し上げます。

日 時：平成8年2月14日（水） 13：30～15：00

会 場：全共連ビル6階の「マツヤサロン」（電話 3265－3301）

（半蔵門線又は有楽町線永田町駅下車、4番出口 徒歩2分）

演 題：「最近のアルゼンチン情勢について」

会 費：不 要

共 催：社団法人 日本アルゼンチン協会

社団法人 ラテン・アメリカ協会

- ◎ 「タンゴ」その踊り、唄、ものがたり

タンゴファン必携の本（英語版）を紹介致します。定価6,240円（税、送料別）のものを会員に限り、特別価格5,500円（送料、税込み）で頒布しますので、直接日本洋書販売配給（株）へ申込み願います。詳細については本号の最終頁をご覧ください。

なお、見本が当協会にありますので閲覧可能です。

- ◎ 「エマージング・エコノミーズ・セミナー」の開催

2月27、28日 外務省において「エマージング・エコノミーズ・セミナー」を開催する予定であり、アジア、中南米の新興経済諸国の対外経済政策責任者等を招き、アジア、中南米の新興経済の成長戦略等を議論する。アルゼンチンからはサンチス経済政治省次官が出席する予定である。

人 事 往 来

(平成7年11月～8年1月)

1. 来 日

- プッチ農牧水産顧問 11月20日～22日 (日ア水産協議)
- ジョルジアディス農牧水産局長 " (")
- 三村雄爾 亜南物産(株)社長 1月7日～下旬迄

2. 訪 ア

- 諸橋 日本商工会議所特別顧問 11月28日～29日
他約60名 (日ア経済合同委員会)

3. 外務省人事異動

- ・小宅庸夫 前大使 1月6日帰国
- ・荒船清彦 新大使 1月26日赴任出発予定
- ・柴田進 中南米一課地域調整官 (前在チリ大参事官)

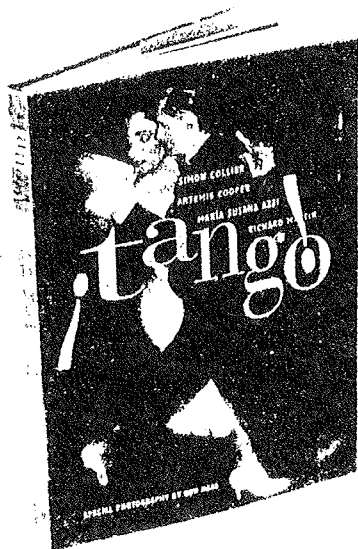
4. 訃 報

1月11日 在ア辻陶器(株)重役 大嶽 稔氏 逝去。

あ と が き

- 本年も会員各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。
なお、次号(第12号)は4月発行予定です。

新刊案内



TANGO : THE DANCE, THE SONG, THE STORY

(英国 Thames and Hudson 刊) 会員特価 5,500 円
(税・送料込) 写真 250 枚以上 (カラー 75 枚・モノクロ
84 枚)、208 ページ、サイズ 305x225mm (テキストは英文)

タンゴ—— 19世紀終わりにブエノス・アイレス
のスラム街で生まれた、世界で最も官能的かつ情熱と哀
愁に満ちた踊り……。本書は、そのルーツやドラマ、そ
して歴史を、魅力的なテキストで美しい音楽のようにつ
ないでゆきます。加えては、その、歴史的・文化的・芸
術的に高価値な 250 枚を越すグラビア!!! 絵画や映画
に登場したタンゴ・シーンも取り上げられ、全てのタン
ゴ、ダンスファン、音楽・映画ファン、および研究者の
方々に必ずや、ご満悦いただける一冊です。

<本書の構成> PART I タンゴの誕生 (1880-1920年) PART II ヨー
ロッパ及びアメリカへの進出期 (1913-1914年) PART III タンゴの隆
盛及びその後 (1920-1990年) PART IV 永遠のタンゴ

<蒼々たる執筆陣!> ●サイモン・コリエール (歴史学者) ●アルテミス・クーパー (作家)
●マリア・スザンナ・アッジ (人類学者《アルゼンチン人》) ●リチャード・マーチン (ニューヨーク・メトロポリタン美
術館 コスチューム部門キュレーター) ***本書にはその他、タンゴの有名な曲の「歌詞」も掲載、さらに巻末
には現在入手可能なCDのリストやタンゴ関連の団体・施設のダイレクトリーなども付されています。

★ご注文は郵便振替にて洋販までお申し込みください。ご入金確認後発送致します。★

YOHAN 日本洋書販売配給 (株)

〒169 新宿区大久保 3-14-9

Tel (03) 3208-0182

郵便振込口座番号 00120-0-95014

TANGO: The Dance, the Song, the Story

by Simon Collier, Artemis Cooper, Maria Susana Azzi, Richard Martin

(Thames and Hudson 刊)

ISBN0-500-01671-2 5,500 円 (会員特価)

必ず、郵便振替票裏面の備考欄に、タイトル、及びご送付先の郵便番号、ご住所、お名前、
電話番号をご記入ください。

社団法人日本アルゼンチン協会 (見本の閲覧可)

〒100 千代田区内幸町 1-2-2 日比谷ダイビル
TEL (03) 3501-4684 FAX (03) 3595-3932